

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年 5月24日

第86号

文責 (校長; 末永栄喜)



汗と泥、そして笑顔にまみれた体育大会でした

連日、夏を思わせる天気が続いています。体育大会当日も強い日差しが照り付ける中、半日ではありましたが無事に終わることができました。早朝からたくさんの応援、そしてご観覧ありがとうございました。

本番前から美化部を中心に、そして直前は学年全員でグラウンド(場)を浄めようと、石ころや雑草の除去に汗を流しました。これだけたくさんの生徒が時間をかけて動けば、拾った分だけ抜いた分だけきれいになったことは言うまでもありません。一人一人の力は小さくても、それが結集すれば大きな力となるのです。



当日も「**結束**」の
スローガンの下、入
場から全競技を通し

て子どもたちの元気な声が響き渡り、躍動する姿が見られました。特に縦割りの団体種目や学年種目は接戦・激戦が続き、その度にお互いに応援する姿が見られたことがとても印象的でした。学年を超えた学校全体の「**結束**」を垣間見ることができました。石拾いや雑草の除去、競技ごとの掛け声や先輩から引き継いだデンマーク体操は、今後も良き伝統として受け継がれていくことでしょう。春休みから準備を進めた3年生の生徒会役員やダンスリーダーは本当によく頑張りました。日焼けした顔と泥まみれの体操服、そして満面の笑顔が印象に残った体育大会でした。



今年度の体育大会を通して、何が自分の中に残りましたか。一人一人の中に成就感や達成感を感じられたのであれば、目的は達成できたということです。行事を通して学ぶことやチャレンジをしたからこそ得られるもの、そして一生懸命頑張ったから味わえるもの。これらの集大成が「**成長**」だと思うのです。それは「**変容**」(チェンジ)という言葉に置き換えてもいいものです。

「**結束**」の先に見えたもの、そして感じたことや得たものを今後の学校生活に生かしてほしいと願っています。それを踏まえて、さあ次は何にチャレンジしますか。



**今日の成果は過去の努力の結果であり、
未来はこれからの努力で決まる。**

(稲森和夫; 日本の実業家 京セラ、KDDIの創始者)

教育実習生 福田真鈴さん来校中

今週から養護教諭になることを夢見て6月10日(月)までの約3週間、本校で実習を積まれます。(令和元年度の本校卒業生です。)

今年度は大学を卒業したばかりの新規採用である原先生も配属されています。お二人とも学校の先生に憧れて、自身の夢を叶えた(叶えようという)超若者です。

初日は早速、「学校教育概要」と題して講話をしました。校内での初任者研修でも同様の話をしましたが、偉そうにも「これからの学校とは」、「先生たる者は」、「子どもたちを育てるその方向性とは」等々、私なりの思いや願いを話したところでした。

学校の先生に限らずどんな職種も経験がものを言いますが、年齢(年数)を追い越して経験を積めるものではありません。逆にどんな経験を積んでも、それがすべてに当てはまるものでもありません。立場や経験は様々ですが「**教員という仕事は魅力的だ**」、「**やりがいを感じる**」、「**学校はやっぱり楽しい**」、「**教員を続けたい(になりたい)**」、「**きつくて頑張れる**」などと、心底思えるような経験を積んで思いを膨らませてほしいと願っています。

ちなみに、本県が示している指標によれば、新規採用の直前は「**0ステージ**」というカテゴリー、つまり「**教職員を目指している大学生**」のことを指します。しかし、今はまだ選択肢の中に入っていないくても、私たちが毎日顔を合わせている中学生だって、**0ステージにあたるのではないか**と思うのです。いわば、「**0ステージの卵たち**」とも言うべきでしょうか。

毎日の教育活動のどこかで「先生」の魅力を伝えようと、子どもたちと向き合っているところです。私たちが接するその態度・姿勢・指導の在り方で一人でも多くの子どもが教員を目指してくれるのであれば、いや、将来の職業の選択肢の一つに加えてもらえれば、**教え甲斐がある**というものです。その頃には、教員の働く環境が少しでも改善してくれることも期待しながら。

さて、「**来校**」と言えば、ALT のルビー先生のお父さんも遥々アメリカから「**来日**」されています。せっかくの機会ということで、全学級の英語の授業に入っていただき、一緒に活動をしています。グループに分かれて、雲仙市のお勧めポイントを紹介していました。温泉、お菓子、地元の伝統行事などでした。また、お父さんへも英語でたくさんの質問をぶつけるなど、とても盛り上がっていました。ゆっくりと丁寧に受け答えしてくださったお父さんに感謝です。双方にとって大変貴重な時間となり、お父さんにご満悦でした。

Thank you
so much.

